

令和 4 年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宝木中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和 3 年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

正答率は、市平均をポイント下回ったが、県平均をポイント上回った。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和 4 年 4 月 19 日 (火)

3 調査対象

小学校 第 4 学年, 第 5 学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第 2 学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第 2 学年 国語 126人 社会 125人 数学 124人

理科 122人 英語 121人

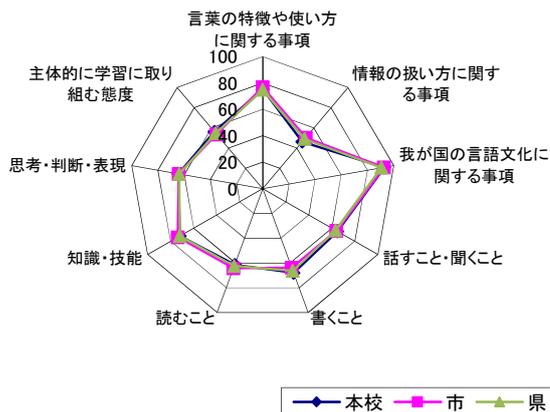
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.2	76.9	74.9
	情報の扱い方に関する事項	46.4	50.3	49.2
	我が国の言語文化に関する事項	92.9	92.6	90.7
	話すこと・聞くこと	64.9	64.2	63.4
	書くこと	67.9	63.7	66.4
	読むこと	61.5	64.2	62.5
観点	知識・技能	71.9	73.7	71.9
	思考・判断・表現	64.4	64.1	63.8
	主体的に学習に取り組む態度	56.3	53.8	54.8



★指導の工夫と改善

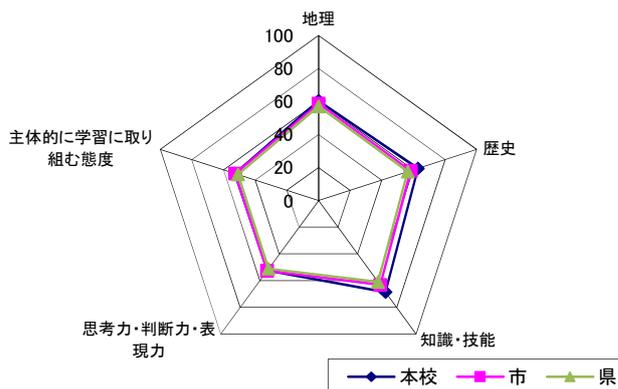
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	正答率は、市平均を1.7ポイント下回ったが、県平均を0.3ポイント上回った。 ●文節や単語等、文法事項に苦手意識をもつ生徒が多く見られ、正答率も低い。	・ほぼ毎日、漢字ノートを課題とする小テストを実施しているので、さらに定着を確認するための定期的なテストを実施していく必要がある。 ・言葉への意識を向けさせ語彙力を高め、日常で使えるようにする。 ・文法の既習事項を、適宜復習していく。
情報の扱い方に関する事項	正答率は、市平均を3.9ポイント、県平均を2.8ポイント下回った。 ●説明文の読解の中で、情報と情報との関係性を適切に捉えることを苦手とする生徒が多い。	・説明文の単元では、原因と結果、具体と抽象など、情報と情報の関係性を意識して読解させていく。 ・情報を正しく読み取るだけでなく、整理してアウトプットする活動を取り入れていく。
我が国の言語文化に関する事項	正答率は、市平均をポイント0.3、県平均を2.2ポイント上回った。 ○歴史的仮名遣いは、おおむね定着できている。	・古文や漢文の音読を繰り返し行っていく。 ・暗唱テストを取り入れて、古文や漢文特有のリズムを定着させていく。 ・視聴覚教材等を適宜活用し、古典への関心を高めるための工夫をする。
話すこと・聞くこと	正答率は、市平均を0.7ポイント、県平均を1.5ポイント上回った。 ○話し合いの聞き、内容を捉えることができている。 ●話題や展開を捉え、お互いの発言を結び付け、考えをまとめることを苦手とする生徒が多い。	・「話す・聞く」の単元の指導を強化し、ポイントを絞って分かりやすい授業を行う。 ・授業の中でスピーチを取り入れ、話題の提示から、自分の意見や考えを述べるパターンを指導していく。 ・聞くときにメモをとらせ、5W1Hを聞き取る基本的な学習内容を取り入れて指導を行う。
書くこと	正答率は、市平均を4.2ポイント、県平均を1.5ポイント上回った。 ○自分の考えや読み取った内容を明確に書くことができている。 ●指定された文字数で文章を書くことは苦手である。	・構成を意識せずに、短い文を書かせ、書くことの抵抗を和らげる指導を行う。 ・「自分の考え 明確な根拠 まとめ」の3段落構成を基本として、構成を意識した文章を書かせる。 ・誰が読むのかという相手を意識した文章を書かせる。
読むこと	正答率は、市平均を2.7ポイント、県平均を1.0ポイント下回った。 ●文章の内容について叙述を基に捉えることを苦手とする生徒が多い。	・文章読解のポイントを絞り、文章読解に慣れるような工夫を行う。 ・内容を比べながら文章を読み、自分の意見や立場をはっきりさせた読み取りを授業で行う。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	60.3	58.7	57.0
	歴史	62.9	58.3	56.4
観点	知識・技能	68.6	63.1	61.0
	思考力・判断力・表現力	52.3	52.5	51.1
	主体的に学習に取り組む態度	52.8	52.6	50.8



★指導の工夫と改善

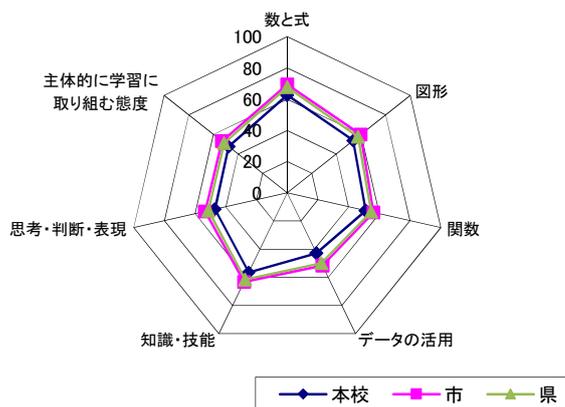
○良質な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>正答率は、市平均を1.6ポイント、県平均を3.3ポイント上回った。</p> <p>○知識・技能に関する問題の正答率が高く、基礎的・基本的な知識や技能を習得している生徒の割合が高いと言える。</p> <p>○思考力・判断力・表現力に関する問題と主体的に学習に取り組む態度に関する問題の正答率は、県平均や市平均とほぼ同じである。本校生徒が苦手としてきた資料や知識を活用して考察する力が付いてきていると言える。</p> <p>○特に正答率が高かったのは、国旗の特色についての理解、日本の都道府県についての理解、地図の特徴についての理解をもとにした地図の読み取り、緯度・経度についての理解をもとにした模式図の読み取り、世界の気候についての雨温図をもとにした考察、乾燥帯の暮らしについての複数の資料をもとにした考察の問題である。</p> <p>●アメリカ合衆国の人種について、資料をもとに考察する問題は、県平均を下回った。</p>	<p>・地図やグラフ、資料の読み取り方のポイントを授業で丁寧に指導する。</p> <p>・地図帳を効果的に使い、地図に触れる機会を多くすることで、地図や地理的事象に関する基本的な理解を深める。</p> <p>・地図やグラフ、資料の読み取り方については、既習事項を生かして考えるように、授業で意識して指導する。</p> <p>・地図と関連させて資料を読み取る力や複数の資料を読み取る力が大切になるので、読み取るポイントを授業で教えるなどして、グラフや地図を活用する思考力を育てる。</p> <p>・調べ学習や問題解決学習を効果的に行うことで、資料を活用する力や思考力・判断力・表現力を向上させていく。</p> <p>・自分の考えを文にしてまとめる活動を増やすことで、表現力を伸ばしていく。</p> <p>・授業の導入で身近な社会に関する話題やニュースを取り入れるなどして、一般的な教養や知識を広げ、主体的に学習に取り組む態度を向上させていく。</p>
歴史	<p>正答率は、市平均を4.6ポイント、県平均を6.5ポイント上回った。</p> <p>○知識・技能に関する問題の正答率が高く、ほぼすべての問題で県平均を上回った。基礎的・基本的な知識や技能を習得している生徒の割合が高いと言える。</p> <p>○思考力・判断力・表現力に関する問題と主体的に学習に取り組む態度に関する問題の正答率は、県平均をわずかに上回り、市平均とほぼ同じである。本校生徒が苦手としてきた資料や知識を活用して考察する力が付いてきていると言える。</p> <p>○特に正答率が高かったのは、古代文明の特色についての理解、卑弥呼についての理解、壱田永年私財法の制定による社会の変化の理解、藤原道長の政治についての理解、勘合貿易についての理解、縄文時代の暮らしについての複数の資料の読み取り、奈良時代の人々の負担についての複数の資料の読み取り、武士の成長についての複数の資料をもとにした考察の問題である。</p> <p>●承久の乱について、複数の資料をもとに考察する問題は、県平均を下回った。</p>	<p>・前回の授業で学習した内容の復習を毎時間行うことで、基礎的・基本的な知識の定着を図ることを、今後も継続する。</p> <p>・資料から既習事項を生かして考えるために、思考するポイントを教える授業を効果的に実施することで、資料を活用して思考する問題に対応する学力を伸ばしていく。</p> <p>・年表を活用する習慣を付けさせることで、海外との関係や歴史の流れをつかめるようにする。</p> <p>・調べ学習や問題解決学習を効果的に行うことで、資料を活用する力や思考力・判断力・表現力を向上させていく。</p> <p>・資料から思考し、記述する問題に対応するためには、読解力や表現力も必要になるので、自分の考えを記述させる授業を効果的に実践する。</p> <p>・授業の導入で身近な社会に関する話題やニュースを取り入れるなどして、一般的な教養や知識を広げ、主体的に学習に取り組む態度を向上させていく。</p>

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	62.6	69.3	67.7
	図形	53.7	59.8	57.7
	関数	51.1	56.2	54.7
	データの活用	42.9	51.6	49.9
観点	知識・技能	56.5	63.2	61.5
	思考・判断・表現	47.1	53.5	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	47.5	53.0	51.2



★指導の工夫と改善

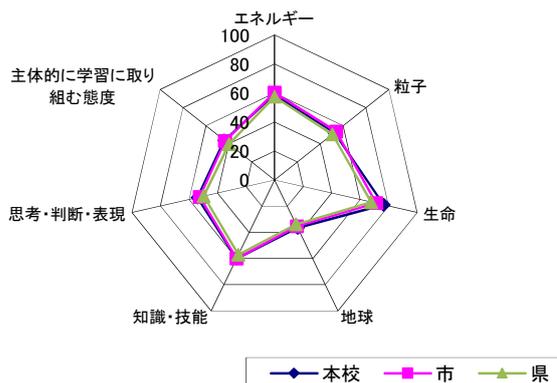
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>正答率は、市平均を6.7ポイント、県平均を5.1ポイント下回った。</p> <p>○基本的な四則の計算や、素因数分解ができています。</p> <p>●負の数が入り混じった計算に課題が見られる。</p> <p>●文字式を用いて、数量の間の関係を不等式に表す問題に課題が見られる。</p>	<p>・負の数についての理解を深めるために、計算の規則について再度復習を行う。</p> <p>・負の数が入り混じった1次式の計算演習を繰り返し行うことで、当該課題の埋め合わせを図る。</p>
図形	<p>正答率は、市平均を6.1ポイント、県平均を4.0ポイント下回った。</p> <p>○平面図形において、対称の軸や回転移動について理解している。また、角の二等分線を用いた作図ができています。</p> <p>●空間図形における、おうぎ形、ねじれについての理解や、様々な立体の体積における理解に課題が見られる。</p>	<p>・平面図形において、基礎的事項を用いた問題演習を行い、深い理解に繋げる。</p> <p>・空間図形において、おうぎ形の面積の求め方や、ねじれの位置関係など、基礎的事項の学び直しの機会を設け、基本の定着を図る。</p>
関数	<p>正答率は、市平均を5.1ポイント、県平均を3.6ポイント下回った。</p> <p>○比例の式から、そのグラフを描くことができています。</p> <p>●関数についての理解に課題が見られる。</p> <p>●比例や反比例の関係におけるx, yの値から、比例の式に表したり、その逆についての問題に課題が見られる。</p>	<p>・問題演習を通して、関数の意味について再確認する機会を設ける。</p> <p>・式に表したり、値を求める問題演習を行うことで、比例、反比例における表、式、グラフの対応関係を復習させる。</p>
データの活用	<p>正答率は、市平均を8.7ポイント、県平均を7.0ポイント下回った。</p> <p>○累積度数の意味について理解している。</p> <p>●度数分布表における用語の理解や、資料から読み取り、比較する問題に課題が見られる。</p>	<p>・基本的事項の定着を図るために、度数分布表における用語の理解や代表値について、復習を入念に行う。</p> <p>・資料から読み取って答える問題や、それらを比較考えをまとめる問題の演習の機会を増やすことで、自分の考えを課題解決に利用する能力を育てる。</p>

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	58.8	60.3	57.4
	粒子	52.5	53.8	50.7
	生命	76.5	71.2	67.8
	地球	36.4	35.3	33.8
観点	知識・技能	60.0	59.9	57.0
	思考・判断・表現	54.1	52.4	49.7
	主体的に学習に取り組む態度	44.0	43.3	39.8



★指導の工夫と改善

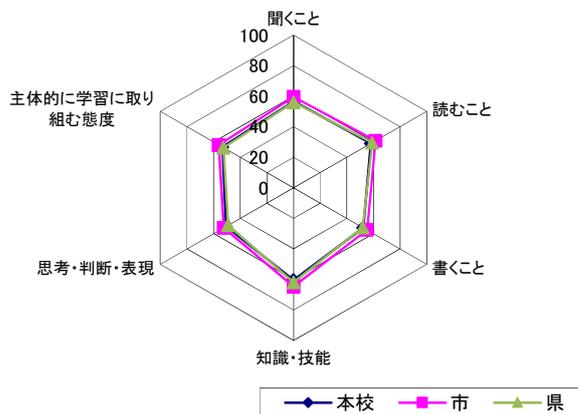
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>正答率は、市平均を1.5ポイント下回ったが、県平均を1.4ポイント上回った。</p> <p>○音の高低と弦のはじき方の関係や、光の進み方についてよく理解できている。</p> <p>●おもりがばねを引く力について答えを選択する問題の正答率が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実験結果を考察したり、グラフを読み取ったり、作図をすることを繰り返し行うことで、学習内容の理解を深めさせる。 問題を解くことで、基礎基本の定着を図る。 音の波形や光の進み方など、実験の結果を繰り返し視聴できる動画教材を活用することで、視覚的な定着を図る。
粒子	<p>正答率は、市平均を1.3ポイント下回ったが、県平均を1.8ポイント上回った。</p> <p>○いろいろな気体の性質についてはよく理解できていて、正答率が高い。</p> <p>●尿素の結晶ができた理由と溶解度について、知識の活用を要する問題は正答率が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> グラフを読み取ったり、計算を繰り返し行うことで、学習内容の定着を図る。 目に見えない小さな物質を扱う単元では、モデルや動画教材を活用して視覚的に理解が深まるような工夫をする。 日常生活の中の科学的な現象を提示することで、興味をもたせる。
生命	<p>正答率は、市平均を5.3ポイント、県平均を8.7ポイント上回った。</p> <p>○植物、動物の特徴を理解し、分類することができている。</p> <p>○ルーペなどの器具の正しい使い方を理解している。</p> <p>●タコ、アサリ、クラゲなどの無脊椎動物の分類についての問題の正答率が低く、定着に課題が残る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 問題を繰り返し解かせ、知識の定着を図る。 DVDや動画教材を活用して、より多くの生物について興味をもたせる。 身近な教材を使い実際に観察することで、実験器具の基本的な操作を習得させる。
地球	<p>正答率は、市平均を1.1ポイント、県平均を2.6ポイント上回った。</p> <p>○双眼実体顕微鏡の使い方を正しい順番に並べたり、地震の2つの波について正しく理解するなど、基本的な内容の問題の正答率が高い。</p> <p>●グラフなどから推測したり、考えを検討したり知識を応用して考える問題は正答率が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 問題を繰り返し解かせ、知識の定着を図る。 DVDや動画教材を活用して、地球の活動について興味をもたせる。 地震のようすのグラフの読み取りや計算、柱状図の読み取りなど、苦手としている内容については、繰り返し問題を解かせながら定着させていく。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	56.7	59.6	56.1
	読むこと	58.1	61.6	59.1
	書くこと	52.3	55.2	51.9
観点	知識・技能	60.5	64.7	61.9
	思考・判断・表現	50.5	52.4	49.1
	主体的に学習に取り組む態度	53.4	56.1	52.5



2.9

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>正答率は、市平均を1.7ポイント下回ったが、県平均を0.3ポイント上回った。</p> <p>○「英文の概要を聞き取りことができる。」では7.8ポイント、「英文を聞き取り、尋ねられたことに対して自分の考えを英語で答えることができる。(教科)」では7.1ポイント県の正答率を上回った。</p> <p>●「絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。」では県の正答率を8.4ポイント下回った。</p>	<p>・英文や対話の概要を聞き取り、質問に正確に答えることができる生徒が多くみられるが、聞き取った英文をもとに正しい英文を書くことが苦手とする生徒も多い。今後は授業中のT/Fテストのほかに、Q&Aをリスニング形式にして、正しい英文で答えを書かせる指導に力を入れたい。</p>
読むこと	<p>正答率は、市平均を3.5ポイント、県平均を1.0ポイント下回った。</p> <p>○「語形・語法を理解することができる(一般動詞の過去形の疑問文)。」では県の正答率を10.4ポイント上回った。</p> <p>●「語形・語法を理解することができる。(代名詞の所有格)。」では8.7ポイント、「英文と情報・条件をもとに、適切なものを選ぶことができる。」では5.4ポイント、代名詞Theyの内容を把握することができる。」でも5.4ポイント県の正答率を下回った。</p>	<p>・教科書の本文の読み取り、また音読に積極的に取り組む生徒が多く、内容をおおむね理解していると思われるが、本文中の代名詞が何を指しているかを理解したり、代名詞を正しく使って問いに答えることを苦手とする生徒も多くみられる。今後は、今まで以上に代名詞に注目させ、それぞれが本文中の何を指しているかを一つ一つ丁寧に確認していく必要がある。</p>
書くこと	<p>正答率は、市平均を2.9ポイント下回ったが、県平均を0.4ポイント上回った。</p> <p>○与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制のcanを使った肯定分を正確に書くことができる。」では県値を6.0ポイント上回った。</p> <p>●「英文を正しい語順で書くことができる。(～'s+名詞)」では県値を5.2ポイント下回った。</p>	<p>・所有格の代名詞や「～の」というように所有を表す形を正しく使えるよう繰り返し指導する必要がある。また、基本的な文法を理解するだけでなく、自分や自分のまわりのことについて、基本文を使って正しい英文で表現する活動を数多く取り入れていきたい。</p>

宇都宮市立宝木中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている。84.9%(県74.8%, 市75.7%)」「家で、学校の授業の復習をしている。53.2%(県37.0%, 市38.8%)」「家で、テストで間違えた問題について勉強している。46.8%(県38.4%, 市37.2%)」家庭学習の習慣が身につけている生徒の割合が高いことがわかる。今後も自主学習ノート指導を継続して、内容をさらに充実させたい。

○「学習塾(家庭教師の先生に教わっている場合も含む)で勉強していますか。65.9%(県52.2%, 市48.6%)」生徒、保護者ともに学習への関心が高いことがわかる。

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。61.1%(県56.6%, 市50.9%)」クラスの中に、友達と話し合いやすい雰囲気を作られている。

○「授業を集中して受けている。62.7%(県45.3%, 市47.0%)」3分前着席の呼びかけを継続していきたい。

○「学校のきまりを守っている。72.2%(県67.4%, 市64.7%)」規範意識をさらに高めていきたい。

○「自分には、よいところがあると思う。47.6%(県38.0%, 市40.9%)」自己肯定感がさらに高まるように、生徒のよいところを数多く認めていきたい。

●「授業で使うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。46.0%(県61.2%, 市55.2%)」ワークシートに記入している教科もある。

●「学級活動の時間に、友達同士で話し合っってクラスのきまりなどを決めていと思う。42.1%(県55.5%, 市55.2%)」自分たちできまりを決める機会をより多く生徒に与えていく。

●「早寝、早起きを心がけている。45.2%(県37.5%, 市38.8%)」心がけている生徒の割合は県や市と比べて高い。「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしていますか(テレビゲームは除く)では「2時間以上3時間より少ない」生徒の割合が最も高いのに対して、県や市では「1時間以上、2時間より少ない」生徒の割合が最も多い。また、「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか。」やDVD、動画などを見たり、聞いたりしていますか(テレビゲームは除く)」でも「2時間以上3時間より少ない」生徒の割合が最も高いのに対して、県や市では「1時間以上、2時間より少ない」生徒の割合が最も多い。このことから、テレビやDVD、携帯電話やスマホ等を使ったゲームに多くの時間を費やしている傾向があり、学習不振や寝不足による体調不良、授業中の集中力低減などにつながる危険性が高い。朝の会や帰りの会、保護者会、また学年通信等を通して、いわゆるスマホ依存症などに関する注意喚起をしていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
(1)『わかる授業』のより一層の推進	①「本時の目標(めあて、ねらい)」の確実な提示	●授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている。74.6% ・(県76.8% 宇都宮市70.0%)
	②生徒の考えを引き出し、思考を深められる(主体的に考えられる)発問の工夫	●クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。46.0% ・(県45.3% 宇都宮市47.0%)
	③話し合い活動の積極的な導入	○授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。61.1% ・(県56.6% 宇都宮市50.9%)
	④「ふりかえり」活動の徹底	○授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。42.9% ・(県39.4% 宇都宮市40.0%)
(2)家庭学習のより一層の充実	①学習に対する家庭の関心を高める工夫	○家の人と学習について話している。55.6% ・(県45.8% 宇都宮市53.1%)
	②自主学習ノートの活用の充実化、点検、アドバイス、賞賛	○家で、学校の授業の予習をしている。34.1% ・(県33.7% 宇都宮市33.3%) ○家で、学校の授業の復習をしている。53.2% ・(県35.7% 宇都宮市33.5%) ○家で、テストで間違えた問題について勉強をしている。46.8% ・(県38.4% 宇都宮市37.2%)
	③家庭学習の充実	○家の人と学習について話している。55.6% ・(県45.8% 宇都宮市53.1%) ○家で、学校の宿題をしている。84.9% ・(県74.8% 宇都宮市75.7%) ○家で、計画を立てて勉強をしている。41.3% ・(県40.7% 宇都宮市41.2%)

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
(1)『わかる授業』のより一層の推進		
①「本時の目標(めあて、ねらい)」の提示を習慣化する。	①「本時の目標(めあて、ねらい)」の確実な提示	①毎時間の学習課題に即した「本時の目標(めあて、ねらい)」の提示を毎時間、確実に行う。各教室に備え付けてあるマグネット(赤い☆マーク)を利用し、生徒が目標を理解した上で授業を受けられるようにする。
②授業で使うノートの効果的な活用を図り、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめが書かれている生徒の割合を90%以上にする。	②効果的なノートの活用	②-1 教科担任によるノートの確認などを通して、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書かせる指導を充実させる。 ②-2 教科担任による板書の工夫と、学習の定着を図った効果的なノートの活用法の指導を充実させる。
③授業における、生徒同志の話し合い活動の更なる充実を図る。	③話し合い活動の積極的な導入	③各教科や学級活動等における話し合い活動を充実させる。
④生徒間の話し合い活動をより一層充実させ、考えを深めさせたり、広げたりすることができる生徒の割合を常に80%以上にする。	④生徒の考えを引き出し、思考を深められる(主体的に考えられる)発問の工夫	④教科担任による教材研究の充実と、「一人一授業」の公開による教師間の学び合いを通じた、授業力の向上を図る。
⑤学習内容の振り返りを習慣化させる。	⑤「ふりかえり」活動の徹底	⑤ワークシートやまとめのテスト、自己評価などを活用して、学習のねらいに即した振り返りを確実に実施する。
(2)家庭学習のより一層の充実に向けて		
①家の人と学習について話をしている生徒の割合をできれば常に85%以上にする。	①学習に対する家庭の関心を高める工夫	①三者懇談、教育相談、各種たよりなどを活用した学習に関する情報提供を充実する。
②予習、復習などの計画的な家庭学習を、より一層充実させる。	②自主学習ノートの点検、アドバイス、賞賛	②-1 学級担任や学年職員による、家庭学習の内容の点検と、コメントの記入等による助言を行い、誉める指導を実践する。 ②-2 優れたノートを学年の廊下に掲示し、実践例の紹介をすることで、自主学習ノートの活用と工夫を促す。
③「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」生徒の割合を更に増加させ、学習内容の効果的な定着を図った復習を実施させる。	③家庭学習の仕方を明示、説明	③-1 教科担任からの復習方法の助言と個に応じた指導を充実する。 ③-2 本校独自の「家庭学習の手引き」を活用し、保護者会や三者懇談で保護者にも家庭学習の方法を紹介し、家庭学習の充実を促す。